



# 自衛隊栃木地方協力本部

## コミュニティFM「ミヤラジ」で自衛隊をPR



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶1陸佐）は4月12日、宇都宮市のコミュニティFM放送局「ミヤラジ」の番組に陸・海の女性自衛官2名を出演させ、自衛隊の生活等について紹介を行った。

出演した佐々木2陸曹は、「通信陸曹として演習場で通信線を設置した際、性別に関係なくできる仕事にやりがいを感じた」ことを語った。重春3海曹は入隊直後、海で5メートル程度しか泳げなかったものの、訓練を重ねて規定タイムを切れるまで泳げるようになったエピソードを紹介した。また、自衛官を目指したきっかけとして、進路に迷っていた折、自衛隊には様々な仕事があることを知り、自分に合った仕事が見つかるかもしれないという思いで入隊したことを話し、パーソナリティーからは「入隊のハードルを下げてくれた」との感想が聞かれた。

番組の終盤には自衛官の採用について「体育系ばかりではなく、文化系やフリーターの方も就活の選択肢の一つにして欲しい」「進路に迷っている人は、併願でもいいので考えてみてはどうか」と案内した。約1時間の生放送の中では、プライベートの過ごし方についても紹介し、パーソナリティーからは「自衛隊について一歩踏み込んだ、優しいメッセージを伝えてくれた」とのコメントがあった。

栃木地本は「今後も地域に密着し、自衛隊を身近に感じてもらえるよう広報活動を続けていく」としている。

## 高校生が土浦駐屯地を見学

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶1陸佐）は4月17日、県内の高校生4名を土浦駐屯地及び予科練平和祈念館へ案内した。

土浦駐屯地の広報地区にある「小火器コーナー」は月1回の限定開放となっており、今回は4月の開放日に合わせて本見学を実施した。

午前中は、「火砲館」「小火器コーナー」「屋外装備品展示」を見学した。小火器コーナーには火縄銃から自衛隊で装備されている銃や国内外の小銃・機関銃など、様々な年代の実銃約170点が展示しており、参加者からは「映画で見た機関銃と同じだ」といった声も聞かれた。屋外装備品展示では陸上自衛隊10式戦車を含む戦車4世代等を見ることができた。また、駐屯地広報室によるクイズを交えた説明に、参加者らは興味深く耳を傾けていた。

午後は駐屯地の歴史を紹介する雄翔館や、隣接する予科練平和祈念館で海軍飛行予科練習生の資料や予科練出身者の遺書等を見学した。土浦の歴史に触れ、参加者からは「戦争についていろいろと考えさせられた」等の感想があった。

栃木地本は「コロナ禍においても実施可能な駐屯地等の見学を行い、自衛隊に対する理解と関心を深めていく」としている。

